

京築神楽 豆知識

京築応援団便り付録

イラスト・文：トヨヒメ
監修：クリボウ

知 ちよる？ 京築神楽



京築神楽 定期公演

■日時 6月10日(土)13:30~16:00

■会場 京築神楽伝統文化会館
豊前市大字八屋1776-2

■入場料 当日1,000円(前売り900円)

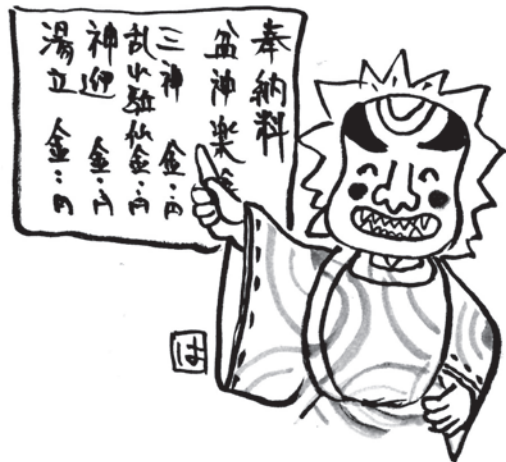
■出演団体 今井神楽研修会(行橋市)
黒土神楽講(豊前市)
南原神楽講(刈田町)

●問い合わせ 京築連帯アメニティ都市圏
推進会議事務局
(福岡県広域地域振興課)
☎092-643-3178

京築神楽 豆知識

京築神楽の定期公演で上演している紙芝居「しゅちよる? けいちく神楽」では、神楽を楽しく見るための豆知識を紹介しています。

今回は、京築神楽の演目の中で、京築の人たちの暮らしに溶け込む奉納神楽についてご紹介しましょう。



奉納神楽 その一

暮らしに溶け込む 奉納神楽

京築の里では、奉納神楽は氏子のリクエストによって舞われ、神楽団体によっては奉納料金が設定されているところもあります。

奉納神楽は、神社のお祭りに際し、氏子全体の願いを込めて舞われる式神楽の後に、家内安全など個人の願いを込めて舞われます。

また、自宅や事務所の新築など、お目出たいことがある時に出張して舞ってもらうなど、奉納の形は様々です。



奉納神楽 その二

派手な演出の 奉納神楽

奉納神楽の代表的な演目は、「剣舞」「盆神楽」「乱ミサキ」「綱ミサキ」「神迎え」「大蛇退治」「湯立神楽」などです。これらの演目に共通するのは、式神楽より動きが激しく派手であること、見ている人たちを喜ばせる仕掛けが神楽団体ごとに工夫されています。

奉納神楽 その三 剣舞

神楽の採り物の中で、邪気を祓う力が強く、所作も難しく危険も伴う舞が「剣舞」です。昔は真剣を使うこともあったとか、「四人剣舞」は四人で呼吸を合わせ、スピーディに舞われます。



奉納神楽 その四 乱ミサキと綱ミサキ

京築で舞われる豊前神楽の代表的演目が、ミサキ神楽です。「魃仙」や「御先」などと漢字で書かれます。この神楽は、鬼と幣方と呼ばれる神主姿の舞人が二人で舞いますが、「乱ミサキ」では、鬼は二人と幣方が二人の四人で華やかに舞います。

綱ミサキは、その名の通り、綱や藁蛇を持って舞う神楽です。最初はミサキ神楽と同じく二人の舞で始まりますが、途中から綱持ち二人が登場し、四人で舞います。鬼は途中で交代し、最初は阿形の前鬼、綱を切る時は吽形の後鬼となります。

ところで、綱にはどんな意味がこめられているのでしょうか？ 綱は水の神である大蛇であったり、もしくは疫病、米作りにとってやっかいな害虫だったりします。刀をもった後鬼が綱を刀で切り落とし、五穀豊穡と病氣退散の願いがこめられています。



奉納神楽 その五 三神

三神とは、三人の神が登場する神楽です。櫛を持った山の神、鉾と鎌を持った田の神、鯛を釣竿につけた海の神です。

春になると、水の源である山の神が里におりてきて、稲の成長を助けます。秋になると、山の神が山へ帰ってしまわないように、田の神と海の神は山の神をおさえこもうとしますが、山の神は、二人を飛びこえたり、元氣いっぱい。そればかりか、神楽を見ている人たちに五穀豊穡の印である餅をもってきて、皆にちぎってふるまってくれます。神楽団体によっては、お餅の代わりに紅白の饅頭だったり、にぎやかな神様とのふれあいの時間がうまれます。

さあ、春です。京築の里では、山の神を田に迎えるおこもりも始まります。